

第20期第5回理事会議事録

日時 昭和55年5月21日(水) 18.00~19.30
 場所 日本教育会館 808号室(神田一ツ橋)
 出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 植村, 奥田, 神山,
 河村, 関根, 新田, 松本, 増田, 山下(以上常
 任理事)
 孫野, 田中, 石川, 伊藤, 山元, 竹内, 坂上
 (以上理事)
 当会監事

議 題

1. 春季大会の準備について

- (1) 理事長あいさつ(案)
- (2) 昭和54年度事業経過報告
- (3) 同上 決算書
- (4) 同上 監査報告
- (5) 会費値上げのための定款の一部改正について
- (6) 昭和55年度事業計画(案)
- (7) 同上 予算書(案)

原案承認

なお、関根理事から公益法人の会計基準にもとづき、収支計算書、予算書(案)を今度から新形式に改める旨の報告があった。

2. 100周年記念事業について

- (1) 「天気」内田理事から100周年記念特別号(案)について、「天気」編集委員会で検討された内容について次のとおり説明があった。
 - ア. 1982年4月特別号予定(約160頁予定)
 - イ. 予算約500万円
 - ウ. アンケートにより事前調査(各管区技術部長, 沖繩気象台次長, 回答5月26日まで)。
 - エ. 「天気」に時々経過報告をのせる。
 - オ. 1982年以後も総目録作成継続予定。
 以上の説明に対し、特にアンケートの内容等についていろいろと意見が出され、これらの意見をふまえて訂正することになった。
- (2) 「気象集誌」浅井理事から100周年記念特別号(案)について次のとおり説明があり了承された。
 - ア. 1982年4月(Ses. II, Vol. 60)に300~400頁の特別号を刊行する。
 - イ. 学会員に対する公募を原則とするが、内容の一層の充実をはかるため外国非会員の招待論文も含める。

ウ. 原稿募集は、「気象集誌」Vol. 58-2号に掲載する。和文も用意してあるので「天気」に掲載して貰う。

エ. インデックスを1982年から新設する。

オ. 予算300万円(平均10頁30篇)400頁になる場合は「集誌」の1号分(100頁)をその増加分にあてる。

- (3) 学会100年史 75年史に引き続いて25年間をまとめる。
- (4) 記念式典ほか 75周年に準じて行う。
- (5) 記念講演会(シンポジウムを含む)

ア. Regional Technical Conference on Tropical Meteorologyの1982年秋開催についてはWMOの内諾を得ている。

外国人の参加者は、約100名位、予算規模を今後細かくつめてゆく。東南アジアの人も参加しやすいようにしたい。

イ. Study Conference on Impact of Ocean Processes on Global Climate and Extended Range Forecastingを1982年5月に気象庁の主催で開催して貰い、そのとき、出席された方のうちから3~4名を招待して講演をして貰う。旅費、滞在費は気象学会が負担する。

3. 昭和56年度当番支部について 順番からすると中部支部が当番になるので、事務局からあらかじめ申し入れしておいた。
4. その他

(1) 山元理事から、秋季大会は、大阪管区気象研究会と共催し、期間中関西支部の総会を含ませること、また、シンポジウムは「豪雨」にするとの発言があり了承された。

(2) 河村理事から、気象普及書の刊行について、原稿も集ってきているとの報告があり了承された。

(3) 増田理事から、4月28日の常任理事会の議事録を一部修正した内容を「天気」に掲載すべきであるとの発言があり了承された。

(4) 奥田理事から、「気象研究ノート」の編集委員の交代について次のとおり説明があり了承された。
 旧 神子敏朗 → 新 清水喜允
 (転出のため) (気象衛星センター)

承認事項 網倉 真ほか16名の新入会員を承認。